コーポレートレポート2018

Appendix

持田製薬グループの主な事業所の環境活動

（サイトレポート）

持田製薬グループ

MOCHIDA

#181206

サイトレポート

持田製薬グループでは、事業所ごとに、
地域の自然環境に配慮しながら、
環境マネジメントを推進しています。

持田製薬株式会社　本社での取り組み

■ 事業所の概要（2018年3月31日現在）

設立：1945年（昭和20年）4月28日
所在地：東京都新宿区四谷1－7
延床面積：3,817m^2

■ 環境活動レポート

▼ 温暖化対策（省エネルギー）の励行

2005年度より夏期（5月～10月）には室内の冷房設定温度を湿度に応じて26～28℃の範囲に設定し、サマーカジュアルでの勤務を推奨しています。また、冬期（11月～翌年3月）は、室内の暖房設定温度を20～22℃に設定しています。そのほか、社屋の南・西側の窓に日照調整フィルムを貼り付けて、冷房負荷の低減を図っています。

また夏期の電力需給対策により、昨年度と同様に自主節電に取り組み電力使用抑制を行いました。

▼ 廃棄物の削減と廃棄書類のリサイクル

重要書類の廃棄に関しては、2005年度より、最終処分まで追跡管理し破砕処理後に製紙原料としてリサイクルする方法に変更しました。可燃ごみは、熱エネルギー回収のサーマルリサイクルされています。プリント・コピー用紙は環境保全に貢献する伐採許可証、合法性証明書、現地確認報告書等により原料の合法性が確認されている環境配慮型製品へ変更するとともに、無駄なプリント・コピー用紙を削減するため、デジタル複合機にICカード認証装置を設置しています。

▼ 2018年度の主な目標と取り組み

① 省エネルギー・温暖化防止の推進
- 電気の使用量削減：夏季対前年度と同様な節電対策
- CO_2排出量削減：3,363t-CO_2/年以下

② ゼロエミッションの推進
- リサイクル率：90%以上
- 廃棄物の分別収集

③ 廃棄物処分場の実地確認　対象施設実施

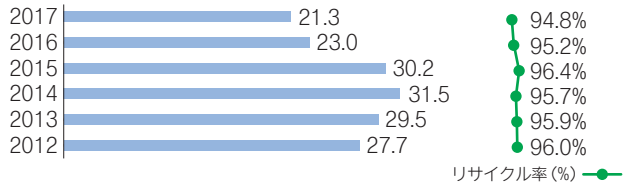
④ 地域社会への貢献
（中央区クリーンデー 5/30）

■ 環境関連データ

CO_2排出量推移（営業車両と自社ビル・賃貸ビル） 排出量（t-CO_2）

注：営業車のガソリン使用量と2009年度より支店事業所も含んでいます。

廃棄物の発生量とリサイクル率推移 発生量（t）



排水量推移（飲料水データと同数値とした。） 排水量（千m^3）

サイトレポート

持田製薬グループでは、事業所ごとに、
地域の自然環境に配慮しながら、
環境マネジメントを推進しています。

持田製薬株式会社　御殿場事業所での取り組み

■ 事業所の概要（2018年3月31日現在）

完成・開設：1982年（昭和57年）7月26日
所在地：静岡県御殿場市神場字上ノ原722
敷地面積：35,151m^2
事業内容：医薬品の研究・開発

■ 環境活動レポート

▼ 2017年度の主な活動

① 省エネルギー対策
- 冷暖房の温度目標を設定して節電
  （冷房　概ね28℃、暖房　概ね21℃）
- 創薬研究モデルの転換による使用施設、設備の整理

② 廃棄物リサイクル率の維持管理と発生量の抑制
- 廃棄物のリサイクル率99%以上、廃棄物発生量：65t以下
- 廃棄予定のコピー用紙有効利用
- 廃棄物処分場の実地確認

③ 環境関連・省エネルギー技術の情報収集および事業所員への環境教育
- 廃油漏洩時の回収訓練

結果

①省エネルギーによるCO_2排出量は、年間目標を3.8%下回る2,033t-CO_2/年となりました。空調機器の温度管理等の継続的な節電、動物飼育施設の空調機をより省エネルギー効果が高いシステムに更新、また、創薬事業の手法転換により、使用施設、設備を整理し、使用エネルギー削減を図りました。
②廃棄物の搬出頻度抑制のため、不要機器とガラス屑を種類や大きさ毎に区分けをし、抑制を図りました。また、創薬事業の手法転換による業務内容の見直しもあり、目標としていた排出量65t以下とリサイクル率99%以上については達成できました。
③環境展の参加、他社の施設見学や、契約先の中間処理施設および最終処分場等の視察、事業所員への環境教育等を実施し、環境関連知識を収集することで、環境対策の充実向上を図りました。

▼ 2018年度の主な目標と取り組み

① 省エネルギー対策
- 冷暖房の温度目標を設定して節電
  （冷房　概ね28℃、暖房　概ね21℃）
- 空調設備の更新に際しては高効率機器を選定する等の施策を講じる
- 合成棟変電設備の更新に際し、高効率型トランスを選択する
- 年間電力使用量は前年度比1.1%減、都市ガスは前年度比1.2%減の省エネ活動を推進する

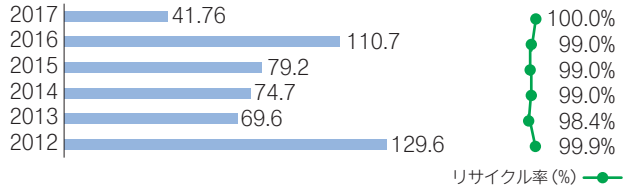
② 廃棄物リサイクル化の推進と発生量削減
- リサイクル率：99%以上
- 廃棄物発生量：40t以下

■ 環境関連データ

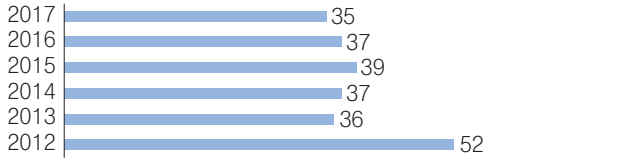
CO_2排出量推移

注：電気事業者のCO_2排出係数で算定しています。

廃棄物の発生量とリサイクル率推移



排水量推移



大気・水質（排水）測定結果

	項目	規制値※	2016年度 測定値	2017年度 測定値
水質	pH	5.8～8.6	7.6～8.2	7.7～8.1
	BOD（mg/L）	25	0.8	＜0.65
	SS（mg/L）	50	1.4	＜1

※　：県条例排水基準
水質：BOD、SSは平均値
大気：規制対象となる特定施設はありません

PRTR法対象物質（単位：t）

政令番号	物質名	取扱量
13	アセトニトリル	0.05
80	キシレン	0.00
127	クロロホルム	0.00
150	1,4-ジオキサン	0.00
186	ジクロロメタン	0.08
232	N,N-ジメチルホルムアミド	0.00
300	トルエン	0.09
411	ホルムアルデヒド	0.01
438	メチルナフタレン	0.00

サイトレポート

持田製薬グループでは、事業所ごとに、
地域の自然環境に配慮しながら、
環境マネジメントを推進しています。

持田製薬株式会社　藤枝事業所での取り組み

■ 事業所の概要（2018年3月31日現在）

操業：1972年（昭和47年）4月11日
所在地：静岡県藤枝市源助342
敷地面積：53,263m^2
事業内容：製剤研究、製造
日々、研究・開発・製造に励むとともに、環境対策・地域貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

■ 環境活動レポート

▼ 2017年度の主な活動

① 省エネルギー対策
- 第2製剤棟キュービクル更新による電気使用量の削減
- 構内外灯および照明のLED化推進による電気使用量の削減
- 共有エリア・製剤研エリア空調機更新による電気使用量の削減

② 廃棄物リサイクル化の推進と発生量削減
- 廃棄物のリサイクル化を継続的に推進
- 廃棄物教育の実施（2018年5月7日）

③ 地域社会への貢献
- 事業所周辺および大井川河川敷の清掃（2018年6月22日 13名）への参加

④ 廃棄物処分場の実地確認
- 12処分場中7処分場（優良認定業者除く）の実地確認実施
- 別途PCB関連：2処分場の実地確認実施

⑤ フロンの適正管理と廃棄管理
- フロン排出抑制法に基づく定期点検、簡易点検の実施

結果

①省エネルギー対策を継続的に推進しておりますが、生産設備、空調機の稼働で、電気使用量が3.5万kWh/年減少、都市ガス使用量が21千m^3/年増加しました。
②の活動は、対前年度比で7.4t（8.0%）減少し、リサイクル率は99.8%でした。

▼ 2017年度の主な目標と取り組み

① 省エネルギー対策
- 事務厚生棟キュービクル更新による電気使用量の削減
- 第三製剤棟2号キュービクル電燈変圧器更新による電気使用量の削減
- SC空調・生産チラーへのエコクーリングエース（省エネ冷却装置）設置による電気使用量の削減

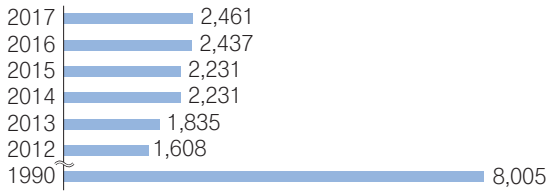
② 廃棄物リサイクル化の推進と発生量削減
- リサイクル率：99%以上
- 廃棄物発生量：83t/年以下
- 廃棄物教育と分別収集の周知徹底

③ 地域社会への貢献
④ 廃棄物処分場（優良認定業者除く）の実地確認　7社実施
⑤ PCB関連処分場の実地確認　1社実施
⑥ 水銀関連処分場の実地確認　1社実施
⑦ フロンの適正管理と廃棄管理

2017年度は、第2製剤棟キュービクル更新、構内外灯および照明のLED化推進、空調機更新によりエネルギーの効率化、CO_2削減を推進していきます。
　藤枝環境委員会を中心に環境目標アクションプランを策定します。

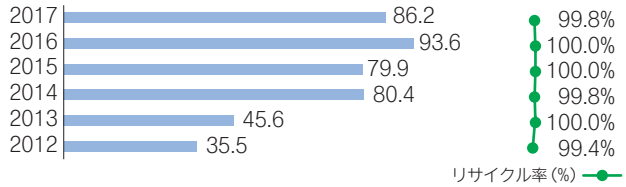
■ 環境関連データ

CO_2排出量推移

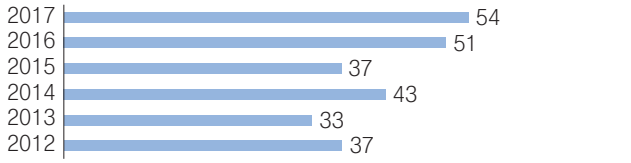


注：電気事業者のCO_2排出係数で算定しています。

廃棄物の発生量とリサイクル率推移



排水量推移



大気・水質（排水）測定結果

	項目	規制値※	測定値	平均値	排出量
大気	ばいじん（g/m^{3}N）	0.2	–	–	–
	NOx（ppm）	180	–	–	–
	SOx	K値10	–	–	–
水質	pH	6.5～8.5	7.1～7.9	–	–
	BOD（mg/L）	10	0.5～2.3	0.97	51.9kg
	SS（mg/L）	20	1.0～1.2	1.01	54.1kg
	COD（mg/L）	–	0.5～2.2	1.15	61.6kg

※：藤枝市公害防止協定による

騒音測定結果（単位：dB）

	項目	規制値	測定値
騒音	朝	60	43～52
	昼	65	44～53
	夕	60	41～52
	夜間	55	37～50

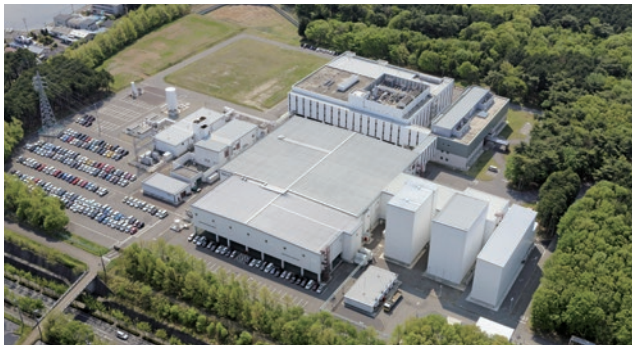
PRTR法対象物質（単位：t）

政令番号	物質名	取扱量
13	アセトニトリル	1.16
127	クロロホルム	0.01
186	ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	0.00
392	ノルマルヘキサン	0.11
192	バリウムおよびその水溶性化合物	0.00
438	メチルナフタレン	0.00

サイトレポート

持田製薬グループでは、事業所ごとに、
地域の自然環境に配慮しながら、
環境マネジメントを推進しています。

持田製薬工場株式会社　本社工場での取り組み



■ 事業所の概要（2018年3月31日現在）

操業：1991年（平成3年）6月12日
所在地：栃木県大田原市中田原431
敷地面積：153,294m^2
事業内容：錠剤、カプセル剤、細粒剤、注射剤、および外用剤製造

■ 環境活動レポート

▼ 2017年度の環境目標と実績

① 省エネルギーによるCO_2排出量の低減
- 電気使用量：1,452万kWh/年以下
- LNG使用量：1,136t/年以下
- CO_2排出量：10,130t-CO_2/年以下

② 廃棄物量の低減と省資源の推進によるゼロエミッションの達成
- 廃棄物排出量：257t/年以下
- リサイクル率：99.0%以上

③ 化学物質の適正管理
④ 環境マネジメントシステムの継続的改善
⑤ 地域・社会との永続的共存

結果

①省エネルギーによるCO_2排出量低減については、年間目標を約2%上回る10,397t-CO_2/年(電気使用量：1,485万kWh/年、LNG使用量：1,177t/年）となりました。超過の主な原因は、外気温度の影響と注射乾燥製剤の予定生産数量からの増加によるものでした。しかし、一方で温度管理などの自主節電や、排熱回収ヒートポンプの導入、生産チラーの更新により、CO_2排出量の増加抑制に一定の成果を出すことができました。
②廃棄物量については267.5tとなり、年間目標を10.5t超過する結果となりました。超過の主な原因は生産設備・機器の予定外の金属廃棄23.2tです。一方で、製剤の廃棄に繋がる重篤な逸脱の減少や改版による廃棄が2016年度より減少しており、廃棄製剤と紙・段ボールの合計で11.9t減少しました。
③化学物質についても適正に管理が行われ、化学物質に起因する事故、健康被害も発生していません。
④年間を通して環境マネジメントシステムの維持・改善を推進し、2018年2月に行われた維持移行審査では、不適合の指摘事項はなく、ISO14001の認証の継続と2015年版規格への移行を完了することができました。

▼ 2018年度の主な目標

① 省エネルギーによるCO_2排出量の低減
- 電気使用量：1,462万kWh/年以下
- LNG使用量：1,140t/年以下
- CO_2排出量：10,190t-CO_2/年以下

② 廃棄物量の低減と省資源の推進によるゼロエミッションの達成
- 廃棄物排出量：235t/年以下
- リサイクル率：99.0%以上

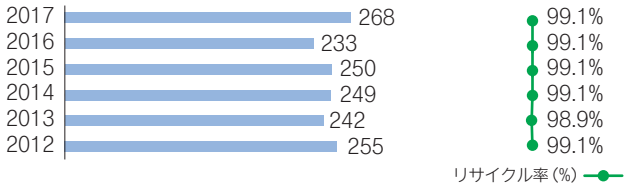
③ 化学物質の適正管理
④ 環境マネジメントシステムの継続的改善
⑤ 地域・社会との永続的共存

■ 環境関連データ

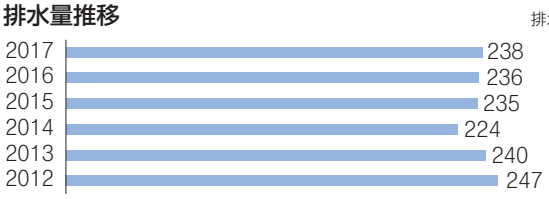
CO_2排出量推移

注：電気事業者のCO_2排出係数で算定しています。

廃棄物の発生量とリサイクル率推移



排水量推移



大気・水質（排水）測定結果

	項目	規制値※1	測定値※2
大気	ばいじん（g/m^{3}N）	–	–
	NOx（ppm）	–	–
	SOx	K値14.5	–
	項目	**規制値※1**	**測定値※3**
水質	pH	5.8～8.6	7.4
	BOD（mg/L）	10	0.8
	COD（mg/L）	–	1.5
	SS（mg/L）	30	1

※1：大田原市公害防止協定に基づいています。
※2：大気：燃料はLNG、測定なし（2010年度以降測定予定なし）
※3：水質：測定値の範囲

騒音測定結果（単位：dB）

	項目	規制値	測定値
騒音	朝	60	43
	昼	65	47
	夕	60	48
	夜間	50	43

PRTR法対象物質（単位：t）

政令番号	物質名	取扱量
13	アセトニトリル	0.434
127	クロロホルム	0.047
232	N,N-ジメチルホルムアミド	0.011
334	4-ヒドロキシ安息香酸メチル	0.021
392	n-ヘキサン	0.079

サイトレポート

持田製薬グループでは、事業所ごとに、
地域の自然環境に配慮しながら、
環境マネジメントを推進しています。

持田ヘルスケア株式会社　埼玉工場での取り組み

■ 事業所の概要（2018年3月31日現在）

操業：1975年（昭和50年）3月
所在地：埼玉県鴻巣市三ツ木61－1
敷地面積：8,153m^2
事業内容：ヘルスケア製品の製造

■ 環境活動レポート

▼ 2017年度の主な活動

① 省エネルギー対策
- 空調機更新による電気使用量の削減
- 構内外灯をLED化推進による節電

② 廃棄物リサイクル化の推進と発生量削減
- 廃棄物のリサイクル化および有価物化の検討を継続的に推進
- 廃棄物の発生量の減少
- 廃棄物処分場の実地確認
- リサイクル率：99%以上、廃棄物発生量：110t以下

結果

①省エネルギーによるCO_2排出量低減は、年間目標を4.6%下回る562t-CO_2/年となりました。空調機更新と構内外灯のLED化の推進及び2016年度実施した構内蛍光灯のLED化の寄与による電気使用量の削減を図りました。
②ゼロエミッション活動として、廃棄物排出量の低減については、年間目標を4.5%下回る105tとなりました。これまで推進してきました記載表示等の変更による廃棄物の削減が寄与したと考えられます。リサイクル率は、98.6%と目標をわずかに下回る結果となりました。

▼ 2018年度の主な目標と取り組み

① 省エネルギー対策
- 空調機更新による電気使用量の削減
- 電力供給会社変更によるCO_2排出量の削減

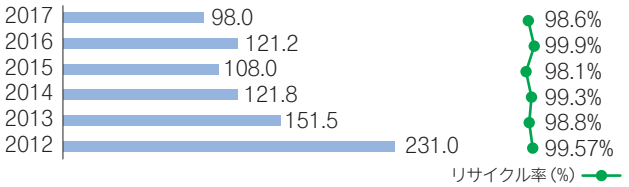
② 廃棄物処分場の実地確認実施
③ リサイクル率：99%以上
④ 廃棄物発生量：105t以下

■ 環境関連データ

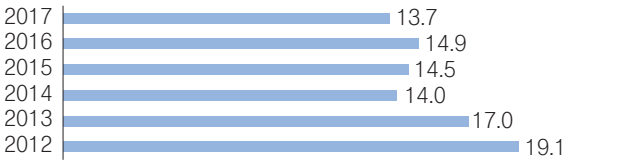
CO_2排出量推移

※電気事業者別排出係数の算定は、調整後の排出係数を使用しておりましたが、2016年度より実排出係数に統一しました。

廃棄物の発生量とリサイクル率推移



排水量推移



大気・水質（排水）測定結果

	項目	規制値※	測定値
水質	pH	5～9	7.2
	BOD（mg/L）	600	42.6
	SS（mg/L）	600	14.3
	COD（mg/L）	–	–

※　：鴻巣市下水道条例
水質：BOD、SSは平均値
大気：規制対象となる特定施設はありません

PRTR法対象物質（単位：t）

政令番号	物質名	取扱量
13	アセトニトリル	0.120
438	メチルナフタレン	0.756